

設計基礎演習Ⅱ / 1 年生後期課題

屋根と雨

阿部 薫子

つきづきし

常盤 侑佳

□レストハウス



流れ

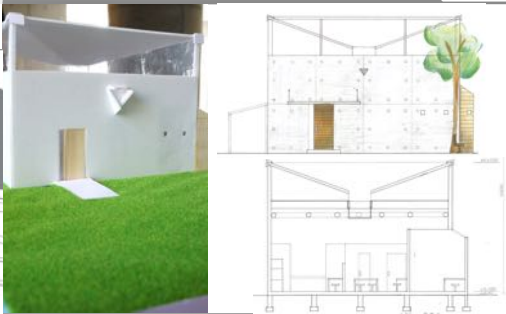
作取 徹

河畔のレストハウス

森山 陽介

(設計概要)

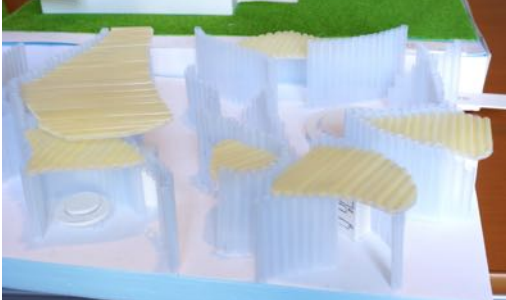
敷地：鹿児島市高麗町・甲突川右岸緑地
(武之橋南詰西側)
敷地面積：約 216㎡
要求機能：事務空間 (約 20㎡)
休憩・展示空間 (約 50㎡)
その他屋外設備 駐輪場
(レンタサイクル 5 台分)



光を多く取り入れる構造にしたいと考え、屋根の形を工夫し、上部に大きな窓ガラスを設けました。屋根に勾配があるため雨が中心に溜まってしまう弱点はあえて中に雨水管を設け、円状にすることでインテリアの一部としました。



人通り、通りの多い東側を正面とした。休憩空間は川に面して大きく開口を設け、川辺の景色、桜島を望めるようにした。また西側に位置する公園との繋がりを持たせるため、子供たちが登って遊んだり日向ぼっこができる芝生を設置した。



敷地全体に人々の流れを誘発することを目的として、全体に半透明の部材を用いることで圧迫感をなくし、空間を広く見せることを試みました。



鹿児島市内を流れる甲突川沿いに整備された散策路の一角にあるレストハウスは、周辺に点在する史跡の散策拠点や休憩。情報発信空間としての役割を担い、街のランドマークとなるようなレストハウスを設計した。

a a e

2015

Dept. of Architecture and Architectural Engineering, Kagoshima University.

鹿児島大学工学部建築学科

2015 年度 学生設計課題

レストハウス

住宅

オフィス

リノベーション

美術館

小学校

集合住宅

フェリーターミナル

劇場

卒業設計

第 58 回建築展「光でやすらぐ空間をつくる」

「光でやすらぐ空間をつくる」



私たちの祖先がつくった竪穴住居は、厳しい自然環境、猛獣などの外敵から身を守るシェルターであった。竪穴住居を原点として現代まで成長を続ける「建築」が人間を風雨から守るある単位としたとき、私たちの体が濡れることを簡易的に防ぐことのできる「傘」は、その最小単位であると発想。最小単位である傘を複数個用いることで建築としてのひとつの形が出来上がる。

2015 年度 第 58 回 建築展






前期合同講評会

2015 年度受賞歴

第 9 回 AOI 会設計優秀賞

1 年生部門 森山陽介 常盤侑佳

2 年生部門 高尾奈緒 脇田佳

3 年生部門 則松杏奈 松田寛敬

平成 27 年度日本建築家協会鹿児島会賞 卒業設計

金賞

竹島光志郎「遊牧民の習慣の建築化」

銀賞

川崎葉奈子「工場緑化リノベーション」

銅賞

西山知宏 「原風景を再生し、未来へ伝承する」

齋藤雅敏 「景観を継承し、新たな関係性を作り出す」

奨励賞

柳元隆太 「City of design KIRISHIMA project」

建築学会九州支部 支部長賞

戸村奈央

日本コンクリート工学会九州支部 支部長賞

公文祐斗

シェルと空間構造に関する夏期セミナー 2015 優秀質疑賞

里中拓矢

コロキウム構造形態の解析と創成 2015 優秀講演賞

西田哲朗

後期合同講評会

日時：201 年 2 月 27 日 (金)

場所：稲盛会館

ゲストクリエーター：建築家 前田圭介先生

題目：「ホームを創出したインターローカルな活動」

日時：2014 年 10 月 4 日 (土)

場所：稲盛会館

ゲストクリエーター：東京工業大学 前田圭介先生

題目：「ボーラ美術館以降」

鹿児島大学工学部建築学科 建築設計作品集 aae vol 12

http://aae.aae.kagoshima-u.ac.jp/office@aae.kagoshima-u.ac.jp

編集 齋藤 雅敏 (鹿児島大学大学院理工学研究科博士前期課程 1 年)

木村 拓 (同上)

監修 鹿児島大学工学部建築学科

2015 年度日本都市計画学会九州支部 支部長賞

倉原拡大

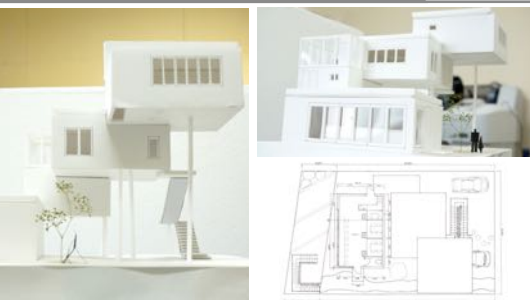
都市住宅学会九州支部 2015 年度優秀学生賞 (創業論文部門)

戸村奈央

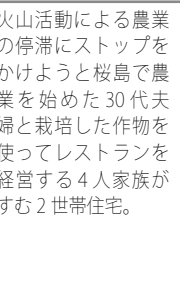
□住宅



(設計概要)
敷 地：鹿児島市桜島小池町
敷地面積：266m²+56m²
要求機能：2つの異なる世帯が暮らす家
構造 / 各自設定
規模 / 各自設定
駐車場、駐輪場等も設定自由
その他 / 法面の使用は自由とし、現状の植栽も各自で検討する



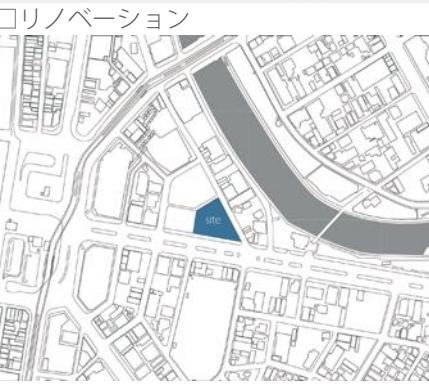
わかれているけど、つながっている家



高尾 奈緒



三角



□リノベーション
(設計概要)
敷 地：鹿児島市中央町 8-2
地域地区：商業地域、容積率 400%、建ぺい率 80%、防火地域、駐車場整備地区
敷地面積：約 1767.93m²
要求機能：歴史的建築である日本ガス本社 (1931 年頃竣工) を、リビングヘリテージとして使い続ける。内部更新や新たな用途を提案する。



Reserve of Wall



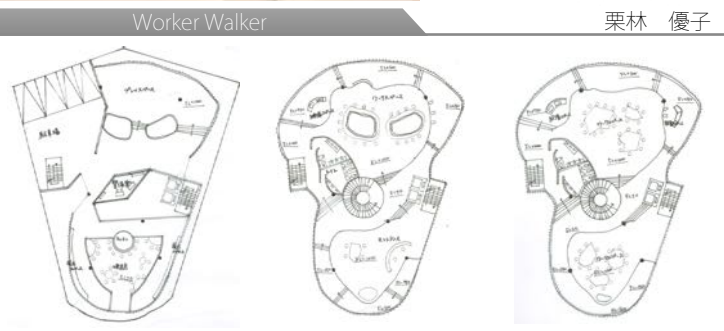
はじまるどころ

建築設計第Ⅰ / 2 年生前期後半課題

□オフィス



(設計概要)
敷 地：鹿児島市中央町 4-44
地域地区：商業地域、容積率 600%、建ぺい率 80% → 100%、防火地域、駐車場整備地区
敷地面積：約 950m²
要求機能：にぎわい創出スペース及び商業施設の計画、インフォーマルコミュニケーションを誘発するワークプレイスの提案



見る 見られる



角でつながる

建築設計第Ⅱ / 2 年生後期後半課題

□美術館



(設計概要)
敷 地：鹿児島市易居町、本港新町
敷地面積：8832m²
地域地区：準工業地域、容積率 200%、建ぺい率 60%
要求機能：展示するアーティスト及び作品 6 点を展示し、その作品のための空間を設計する。



街とアートの繋がり



流れとよどみ

建築設計第Ⅳ / 3 年生後期前半課題

手をのばせば さしだす手

□フェリーターミナル

(設計概要)

敷地：鹿児島市

地域地区：準工業地域（鹿児島港側敷地）、指定なし（都市計画区域外）（桜島港側敷地）

要求機能：待合スペース、観光案内所、物販店舗、市バス乗り場、事務室、会議室、災害用備蓄倉庫など



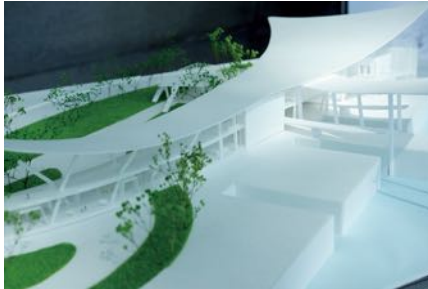
阿吶の港

対岸の鹿児島港に、桜島港に向かいさしだす手それはその地を訪れる人を迎える手それはその地を後にする人を見送る手フェリーターミナルが旅の単なる通過点ではなく、旅の1ページを彩るものに

本山 翔伍、佐々木 麻結



河村 悠希、則松 杏奈



建築設計第Ⅲ / 3 年生前期前半課題

Loop

□小学校

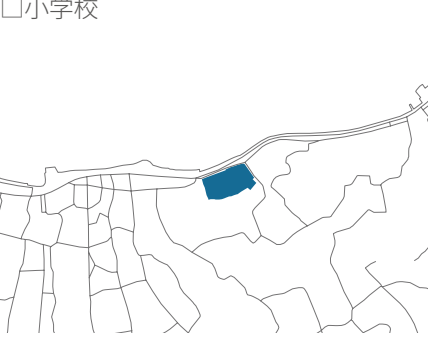
(設計概要)

敷地：鹿児島市桜島松浦町 355（鹿児島市立桜峰小学校）

地域地区：指定なし

敷地面積：11,297 m²

要求機能：普通教室、メディア部門、特別教室、体育施設、管理諸室、生活・交流空間



灰ニモマケズ

子供たちに行き止まりを感じさせない小学校として下記の要素を考えた。

・自由度の高い回遊性（loop）をもたせた廊下

・錦江湾を望む教室からの眺望

・交流の場となるランチルーム

・地域開放型の体育館とプール

体育館を中心とした小学校入学式、文化祭、卒業式。学校の大事な行事の中心はいつも体育館。外で遊ぶという選択肢を失った子供たちへ恒久的遊び場を、と考えたときに体育館を中心とした小学校にたどりつかいだんからはじまるいた。

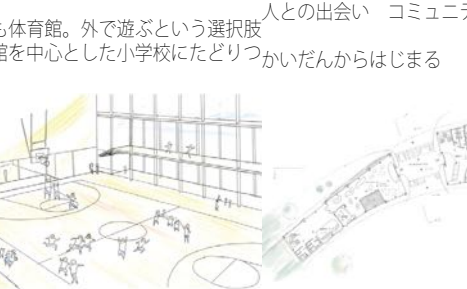
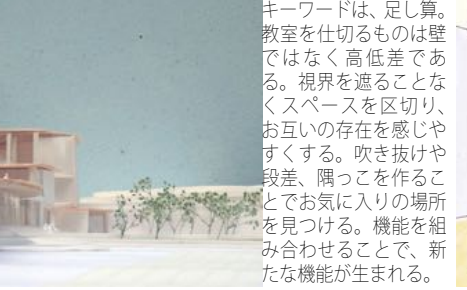
倉岡 進吾

キーワードは、足し算。教室を仕切るものは壁ではなく高低差である。視界を遮ることなくスペースを区切り、お互いの存在を感じやすくする。吹き抜けや段差、隅っこをすることでお気に入りの場所を見つける。機能を組み合わせることで、新たな機能が生まれる。

はじまりの階段

人との出会い コミュニティー 火山活動からの避難

佐々木 麻結



建築設計第Ⅳ / 3 年生後期後半課題

芸術の交差点

□劇場

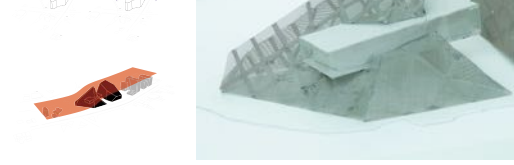
(設計概要)

敷地：鹿児島市加治屋町 20-17

地域地区：商業地域、容積率 500%、建ぺい率 80%、防火地域、駐車場整備地区

敷地面積：約 11,880m²

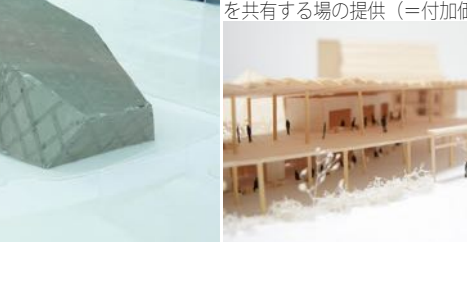
要求機能：600 人以上のホール及びホール関係諸室、別用途の 1000 m²以上の公共施設の計画。



Over-imprinting

劇場に加え、アートギャラリー、レストランを計画的に配置することで街に向かって劇場の賑わいがあふれ、催しの無い日も夜間も光を放ち、賑わいを感じさせる「鹿児島の新しい芸術の拠点」を計画する。

秦 健二

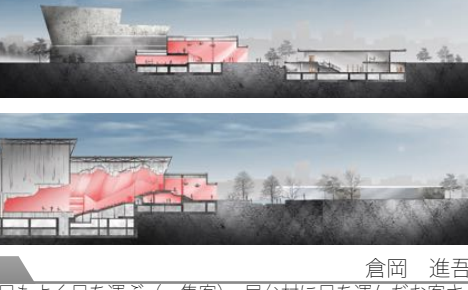


交わりの谷

商業・交通・緑地など多くの要素が交わる敷地。人や物が入り交じることにより多くのエネルギーが集まる。キーワードは“交わる”

非日常的な劇場と日常的な図書館を交える。二つの施設の交わる場所に“谷”ができ魅力的な空間が生まれる。

本山 翔伍



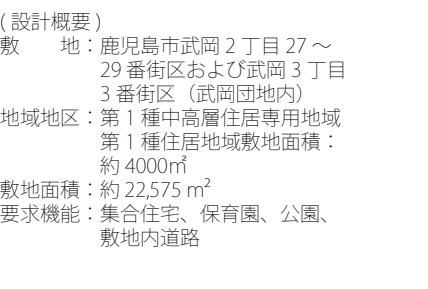
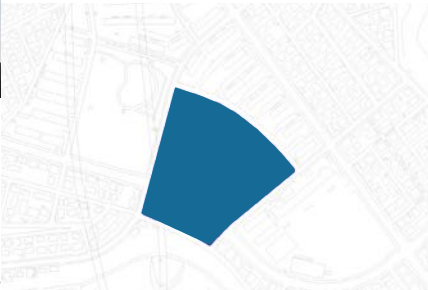
劇場の屋台

・観光名所でありながら地元住民もよく足を運ぶ（＝集客）

・屋台村に足を運んだお客さんに劇場の存在を知ってもらえる（＝広告）

・コンサート・劇を鑑賞し高まった感情（＝激情）を共有する場の提供（＝付加価値）

倉岡 進吾



庭で交流する集合住宅

現在、敷地には市営の住棟と商業施設、医療施設があり、この地域では少子高齢化が進んでいる。そこで、家族世帯、単身者の住める受け皿を作り、人と人が交流する空間を計画する。

まず、敷地を大きく三つに分ける道路を配置し、その道路の交差点、中央部分に公園を配置して、敷地内でのコミュニティを三つ作った。そのコミュニティが交流する空間が公園である。

宇都宮 尋史



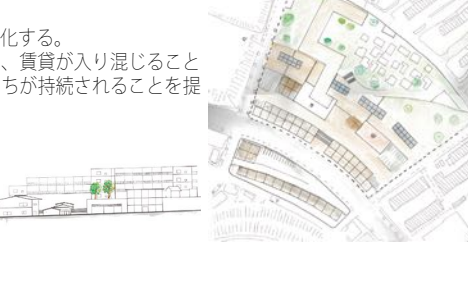
Fill the void

1.住戸の中にVoidをつくる。2.住戸の外にVoidをつくる。3.人それぞれが、自由に「Voidを満たす」

家族色

どのような集合住宅が必要とされているのだろうか？新たな集住様式の一つとして共有スペースを活用し、ソーシャルアパートメントに対応させる。また、部屋数を将来の状況に合わせて変化させることができるようにし、更に分室にすることでシェアハウスにも二世帯住宅にも対応させ、住宅内の共有スペースが共住意識を作り出すことを提案した。

野坂 直央



建築設計第Ⅲ / 3 年生前期後半課題

Loop

□集合住宅

(設計概要)

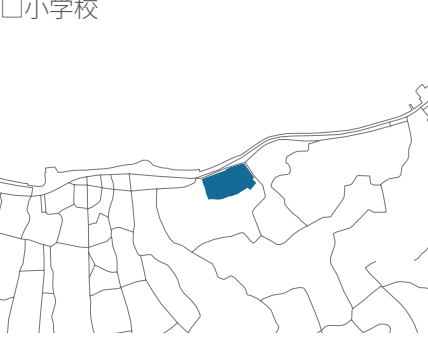
敷地：鹿児島市武岡 2 丁目 27 ～ 29 番街区および武岡 3 丁目 3 番街区（武岡団地内）

地域地区：第 1 種中高層住居専用地域

第 1 種住居地域敷地面積：約 4000m²

敷地面積：約 22,575 m²

要求機能：集合住宅、保育園、公園、敷地内道路

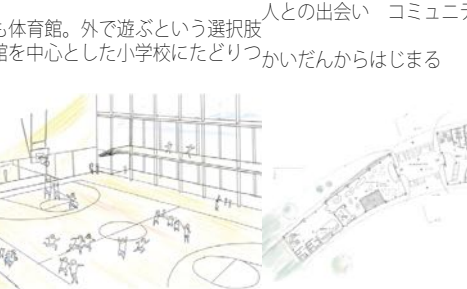
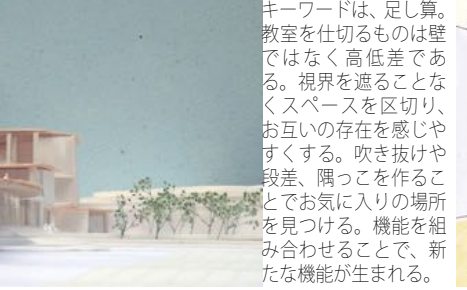


庭で交流する集合住宅

現在、敷地には市営の住棟と商業施設、医療施設があり、この地域では少子高齢化が進んでいる。そこで、家族世帯、単身者の住める受け皿を作り、人と人が交流する空間を計画する。

まず、敷地を大きく三つに分ける道路を配置し、その道路の交差点、中央部分に公園を配置して、敷地内でのコミュニティを三つ作った。そのコミュニティが交流する空間が公園である。

宇都宮 尋史



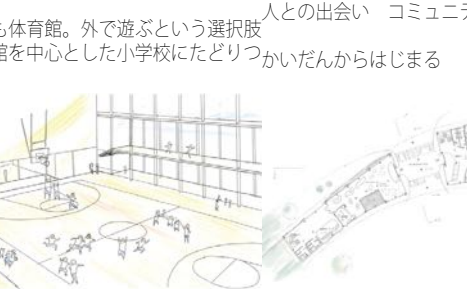
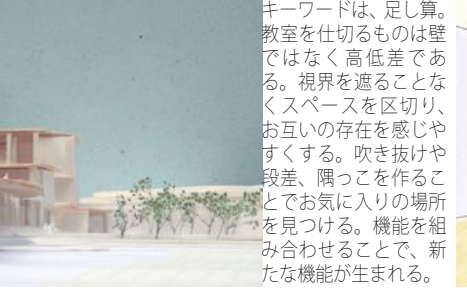
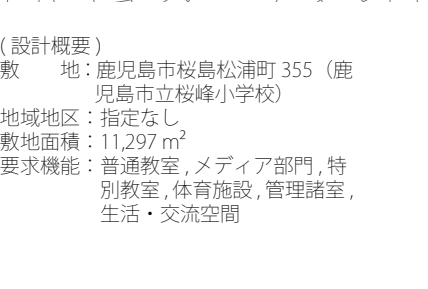
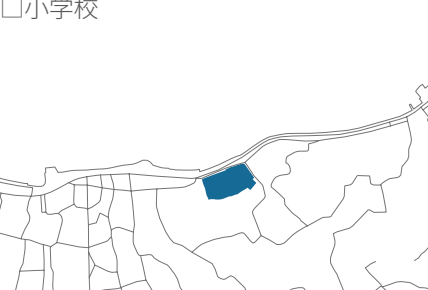
Fill the void

1.住戸の中にVoidをつくる。2.住戸の外にVoidをつくる。3.人それぞれが、自由に「Voidを満たす」

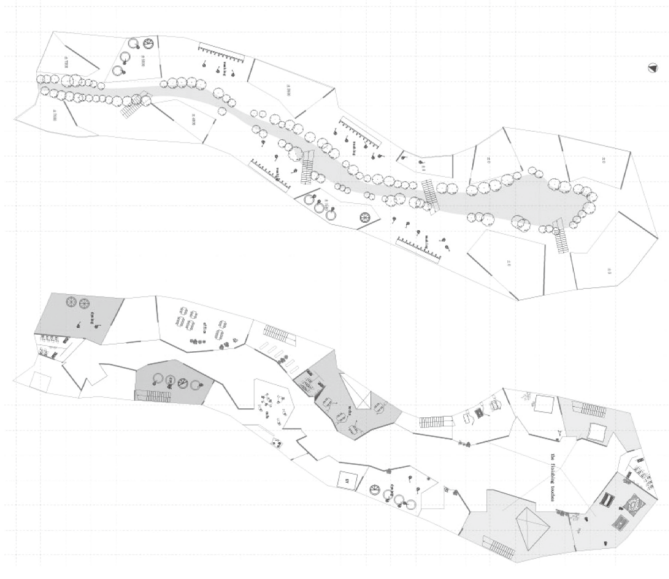
まちと暮らす

人生の中で家族の形態は変化する。そのことに注目し、戸建て、賃貸が入り混じることによって移り住みながらまちが持続されることを提案した。

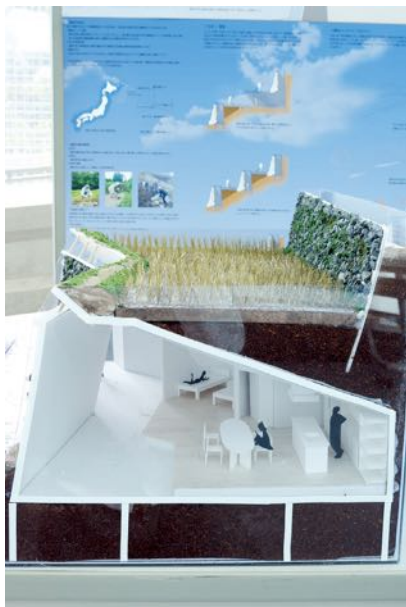
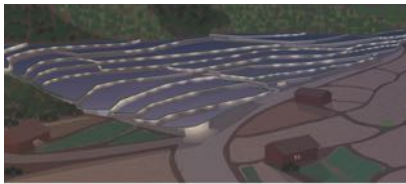
寄口 美乃里



イラン南部のザクロス山脈、標高 2,000 ～ 3,000 m の山岳地帯で羊とともに遊牧を営むカシュガイ族の人々。そんなカシュガイ族の女性たちが、天と地にある森羅万象を感性豊かな心でとらえ、家族の幸せを願う模様を織り込んだ絨毯、それがギャップである。「悲しみを忘れるために織り、喜びを忘れぬために織る」カシュガイ族の女性が魂を昇華させた手仕事の魅力が、私を「ギャップの旅」へと誘った。自分たちの誇りであるギャップを完成させるこの工場で、町や村に定住した友や家族と再会を果たし、この建築はギャップと人を「繋ぐ」存在になる。



階段状に大小様々な形の水田が集まる美しい棚田の景観は、日本の原風景を作り出している。しかし近年では耕作放棄が増えており、維持していくには持続的な対策が必要となる。そこで、棚田に建築を組み込むことで住むことのできる景観としての棚田を提案する。敷地は福岡県の南東部、九州山地の山間部にある。クラインガルテン（滞在型市民農園）は、農地とラウベと呼ばれる小屋からなり、このラウベの設計を行う。都市部に住む人が休日や余暇を利用して滞在し、農業できる場を提供するこのシステムを棚田に取り込む。面積が小さく管理が難しい棚田を農園として使ってもらうことで棚田を維持させることができる。トップライトから漏れ出す光によって、幻想的な空間を作り出す棚田の灯り。建築によって人の生活と棚田が組み合わせさり生まれる景観を提案する。



建築が、環境を構成する要素となり、環境の様々な要素が人間の五感に働きかけ、そのフィードバックにより行動を促す。そこでの行動は、同じ場所でも人が違えば、また時が違えば、変わってくる。まちの構成要素から、まちの魅力を建築によって再構築し、多様な人々にとって新たな居場所となる都市空間をつくる。都市空間の中に流通に関わる機能を挿入し、人の活動を誘発する建築をつくる。まちの余白を再考し、まちに水際をつくる建築は、佐世保というまちの新たな一角となる。



かつての農場の歴史を踏まえた農業専門学校を含む複合施設、建物のシンボルとなる塔拠点を作り、失われたかつての活気を取り戻す。

